

## 第23回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

※この報告書は、当財団のホームページに掲載させていただきます

グループ名	第40回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 松山実行委員会
開催日時	2022年2月7日 13:30~15:30
テーマ	全国大会「どう生きる人生100年五七五」から見たものそしてこれから
形式	パネルディスカッション
講師等	講師：樋口恵子（NPO 法人高齢社会をよくする女性の会理事長） パネリスト：渡邊桂子（第1分科会）、伊東まゆみ（第2分科会）、西原千景（第3分科会）、中田千種（第4分科会）、大西愛子（第5分科会）、樋口恵子（第6分科会） コーディネーター：篠崎英代
〈内容〉	<p>2021年10月23日-24日に開催した第40回高齢社会をよくする女性の会全国大会 in 松山の報告を行うことを目的に、各分科会担当者をパネリストに、それぞれが行った内容と見たものを発表するパネルディスカッションを行った。会場参加者と意見交換することを考えていたが、感染拡大で、今年もあきらめざるをえなかった。</p> <p>大会のテーマは「どう生きる人生100年五七五」～希望のカギは地域から～、前人未達の超高齢社会となる日本において、共に助け合える社会の構築が必要とされる今、地域共生社会のあり方について考えることをテーマとした。その中で、6つの分科会がそれぞれのテーマでいろんな角度から知恵を出した。今コムズフェスティバルでは、パネリストから各分科会の模様と大会を通して見たことなどが報告された。</p> <p>第1分科会「超高齢社会の現状と課題」：22歳から89歳までのパネリストの発言からは、祖母のようになりたい、自分をアップデートしたい、「家事ダン」としてはがんばりすぎない、自分の最後は自分でプロデュースしたいなどが紹介された。</p> <p>第2分科会「食と健康」：地元研究者による郷土料理の紹介や、高齢になっての栄養の取り方など、すぐに使える食の知恵が語られたこと、その後健康体操となるサルサダンスが披露されたことが紹介された。</p> <p>第3分科会「介護」：介護制度の枠外にいる人に手が届かない現状があること、地域共生社会の実現に向けては、いざというときに自分を助けてくれるのは誰かに関心を持つ必要がある等の講演の後、ワークショップが行われ、地域で取り組んでいることや、これから試みようとしていることが、参加者から語られた。</p> <p>第4分科会「地域」：社会で支える力をどう育てられるのかを、地域になじむ介護施設としてオープンな場づくりに努めている事例や、地域包括ケアが西日本豪雨被害の地域と連携した事例、地域社協からは福祉ニーズをキャッチし制度に結び付けることの大切さを、医療生協からは地域のつながりが健康と密接していること、つながりを地域資源として、互いに育て合う関係にあることが語られた。</p> <p>第5分科会「俳句ライブ」：夏井いつきさんの「よくぞこうして句会ライブを開いてくださった」から始まる名調子の司会と、名指導で全国からの参加者は大盛り上がりだった。</p>

。 第6分科会「デジタル化と高齢者」：デジタル化についていけない高齢者、特に高齢女性は家庭科教育において問題があった。デジタル社会に取り残されないために、国の関係機関へ要望書を提出することが提案され、大会の同意を得られている。出来上がったら発表する。

(収録風景)



〈まとめ〉

パネリストから出たむすびの言葉を以下にまとめた。

全国大会を通して人生の第一歩を踏み出せた気がする。皆で考え出したことはとても意義深いと思うが、これらをもっと多くの人と共有できないだろうか。この会に携わった者でどう発展させていけるのか考えたい。今後、単身世帯が増える実態が浮き彫りになったが、ますます地域の力が必要となる。その第一歩に生活支援コーディネーターへの道に踏み出すことも提案したい。長い人生を生きるには、何を大切にしたいのか、どう生きたいのか考えておくことではないか。そして、高齢社会がどうであればよいのか考えてみると、住んでいる地域のすぐそばの人に声をかけ優しくしてあげたいと思う。これからはしてもらいたいと思うだけでなく、社会につながり何かできる人になろう。